

別寒辺牛

べかんべうし

2007年1月発行
NO.11

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより

水鳥観察館

— 2007 —

水鳥観察館だより「べかんべうし」は、厚岸の自然環境、動植物などの旬の情報を提供しております。

ワシの王者 オオワシ・オジロワシ (タカ目・タカ科)

★ 初夢は、一富士、二鷹、三なすびですね ★

皆さん、どれかは夢に出てきましたか？もし、見る事が出来なかった人は是非！水鳥観察館に生のオオワシ♠オジロワシ♠を見に来て下さい。その雄大な姿はさすが王者★何かパワーをもらえそうな気がします。



～オオワシ講座～

成長は黒と白の体に、黄色の大きなくちばしとくさび形の白い尾をもつ美しい海ワシです。幼鳥は、ほぼ全身が暗褐色で、顔は一様に黒みが強く、頭頸部、およびときに胸は灰色の軸線があります。繁殖地はサハリン島（樺太）北部、アムール地方からカムチャッカにかけてのオホーツク海沿岸で繁殖し冬はアムール地方、ウスリー地方、朝鮮半島、それから千島列島、日本で過ごします。当観察館では10月の末に建物近くや館内の大型スクリーンで確認する事が出来ました。これから1月、2月と数が増え厚岸湖では氷下網漁の近くでエサを狙ったりエゾシカの死骸、またはカモやカモメ類なども食べ冬を越します。

厚岸湖のオオワシ

～オジロワシ講座～

海岸近くに生息し、オオワシと同様、主に魚類を食べる褐色の海ワシ類です。成長は頭頸部から体と翼の前半が淡褐色で、体後半は暗灰褐色、尾は名前のとおり白くオオワシと似ています。幼鳥は全体的に暗褐色です。ユーラシア大陸の北部と東部、アイスランド、グリーンランド、日本、サハリン、千島列島で繁殖をしています。厚岸町には約3つがいほど生息しているのが確認されていて、水鳥観察館では2階展望室でよく見られるほか、1階のプラズマビジョンで確認する事が出来ます。オオワシと同じように厚岸湖での氷下網漁やエゾシカの死骸、やはりカモやカモメ類を食べて冬を越します。



厚岸湖のオジロワシ

～職場体験実習～

昨年の10月に、真龍中学校2年生男子1名・厚岸中学校2年生女子1名が中旬と下旬に職場体験実習の一環で2日間に渡り水鳥観察館での業務と一緒に体験しました。事務所内だけではなく、外へ出て野鳥の調査やアッケシソウの畑起こしや種まきにも挑戦してもらい、また2日間の日程の中に別寒辺牛湿原やそこに生息する生き物などについて専門員からの講義もあり、湿原の必要性や大切さを学んでもらう事が出来たのではないかと思います。2日間でしたが、作業に取り組む積極性、話を聞く時の姿勢はとても感動させられました。



～ 実習生から一言 ～

来館された方々との交流やアッケシ草の種まきの楽しさ、ハクチョウ調査の大変さなど色々学ぶ事が出来、とても勉強になりました。短い時間でしたがこの体験をこれからの自分に生かして行こうと思いました。

厚岸中学校2年 ♥小松 悠里

カメラの掃除は山に登ってとても大変だと言う事が分かりました。自然について考えたり、守ったりする事は大変ですが、とても大事な事で有る事が今回の体験で良く分かりました。とても貴重な体験が出来ました。

真龍中学校2年 ♠工藤 亮輔

*** 授業の一環だけではなく夏休みや冬休みの自由研究にも是非★水鳥観察館に来館をして厚岸に生息する生物や湿原をテーマに研究発表をしてみてください。館内に勤務している専門員が可能な限りお手伝いをします。また、休み中の工作作りに館内のレクチャーも是非利用して下さい。***

♥タンチョウの目線で築作り～♥



昨年の11月の野鳥観察会でタンチョウになったつもりで築作りに挑戦してもらいました。

★タンチョウは一本一本くちばしだけで作ります★

別寒辺牛湿原では春の雪融けが始まると約10羽程のタンチョウがやって来て縄張り争いをはじめます。そしてその中の強い二つがい残り、四月の月上旬に湿原の中に約1.5mの巣を何個か作り最終的には一つの巣を決め約2個の卵を産み30日～35

日間オスとメスが交互に卵を暖めます。雨にも耐え風にも耐えつがいですっかり抱卵している姿は心打たれるものがありますよ。春には是非その姿を水鳥観察館まで見に来て下さい。タンチョウの情報はこれからも「別寒辺牛だより」に掲載しますので読んで実際の状況を観察館まで来て確認してみたいかたがきっと感動をして頂けると思います。



厚岸にやってくる オオハクチョウ



オオハクチョウがやってきた

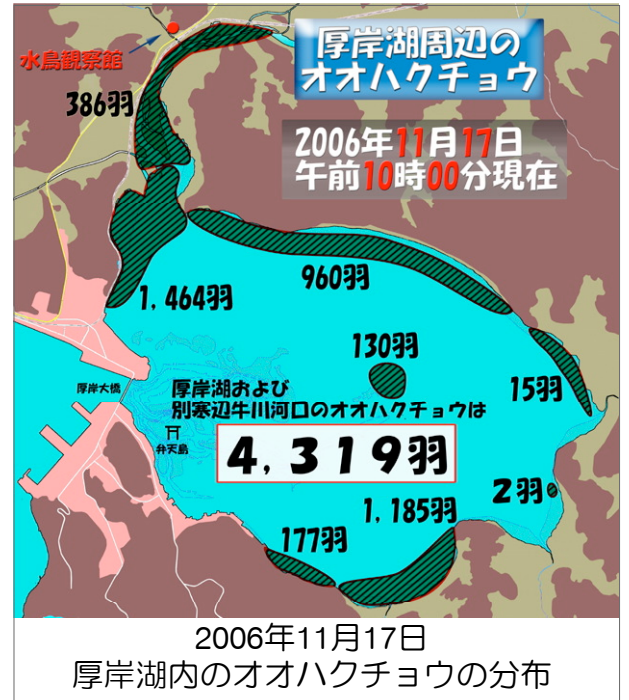
今年もオオハクチョウは例年とほぼ同じ時期、10月13日にやってきました。その後どんどん増加し、11月中旬から下旬にかけて最大約4,300羽程度をピークに、12月初旬から中旬には約3,400羽と減少しています。（ここ2年ほどのピーク時の飛来数は約7,000から8,000羽でした。随分少なく感じますが、実際には、厚岸湖に飛来しながら同時に南下するため、ちょっとの飛来のズレでピークの数は一気に大きく変動しますので、この数字は、厚岸湖にやってくるハクチョウの総数にはあまり役に立ちませんが。）

オオハクチョウの食べ物と分布

なぜこれほどまで多くのオオハクチョウがやってくるのか？ それはオオハクチョウにとって厚岸湖と別寒辺牛川河口は、厚岸湖に無尽蔵に生えているアマモを食べるための重要な中継地だからです。そう！オオハクチョウは草食動物なのです！ そして厚岸湖、そして根室の風蓮湖などで十分に栄養を蓄えて、一気に太平洋上を東北に向かって渡っていきます。

でも、厚岸の市街地や酪農地帯上空を飛んでいる、もしくは鳴いているのに気づくことはあっても、この渡りの最盛期のハクチョウ類を町中で見ることはありませんよね？ なぜでしょう？

それはハクチョウ類が食べやすいアマモの生えている場所が、図のように奔渡7丁目の奥のチカラコタンからイクラウシ沖、そして厚岸湖北部ホロニタイ、神岩沖から別寒辺牛川河口に集中しているからなのです。



越冬するオオハクチョウ

しかし、オオハクチョウ全てが渡ってしまう訳ではなく、冬の寒さに応じて1,500から3,000羽ほどが厚岸湖の凍っていない水面で冬を越します。厳冬期のオオハクチョウは、氷の境目でねぐらを取り、お腹がすいて引き潮になり、水草が食べやすくなると水面に出てきてアマモを食べて生活しています。

氷が張って、その境目が市街地近くにまで来ると、オオハクチョウの集団がようやく私たちの目の前に現れる、と言った訳なのです。

実際は厚岸町にやってくるオオハクチョウは10月中旬から4月中旬までいるのです。

これだけダイナミックなオオハクチョウの中継、越冬の様子を、給餌すること無しに自然の状態で見ることが出来るのは、日本全国でも実は厚岸だけなのです。この点は、全国に自慢できる厚岸の自然の特徴の一つなんです。

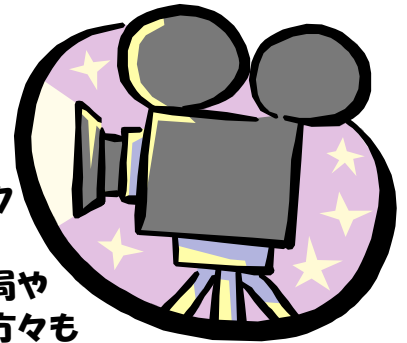


ひときわくすんで見える黒っぽいハクチョウは、まだ生まれて半年ほどの幼鳥です。たった4ヶ月ほどで極東ロシアから数千キロを渡ってくるなんてすごいでしょ！！！！

取材の取材です！！



昨年11月23日にNHK「ほくほくテレビ」の取材が水鳥観察館に入りました。その時館内を利用していた町内の小学生4人がレクチャールームで工作をしている様子をNHKが取材をしている所です。このようにテレビ局や雑誌の取材にたびたび水鳥観察館を訪れる方々も多いです。またその掲載された記事等を見て館内を訪れる方も少なくありません。❀❀❀❀❀



インターネットからも・・・



最近のご自宅でインターネットをされている方が多いと思います。ご存知ですか、ネットで水鳥観察館を検索すると別寒辺牛湿原の状態が静止画面ですが見る事が出来ますよ♥季節の移り変わりに伴ってそこに生息する野鳥や動物達の姿が写しだされています。この映像は水鳥観察館から約800m離れた山の高台にカメラ小屋を設置して館内で遠隔操作されています。水鳥観察館まで来るとリアルタイムでライブ映像を見る事が出来ますが、その前にインターネット上で情報を得てから直接館内に確認に来てみては如何でしょうか❀❀❀



1月の野鳥観察会についてのお知らせ

～ 厚岸湖の冬鳥を観察しよう ～

❀ 野鳥観察会場所 ❀ (厚岸湖湖岸線など)

日 時 : 1月20日 (土曜日)

時 間 : 午前10時～正午

集合場所 : 厚岸町役場
(送迎が必要な方はご相談下さい)

❀天候不良の場合は水鳥観察館で「冬鳥」をテーマにしたお話❀



あっけし みずどり かんさつかん

☎088-1140

厚岸水鳥観察館

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ6番地

TEL (0153)52-5988 FAX (0153)53-2121

URL: <http://www.marimo.or.jp/AWOC/>

